

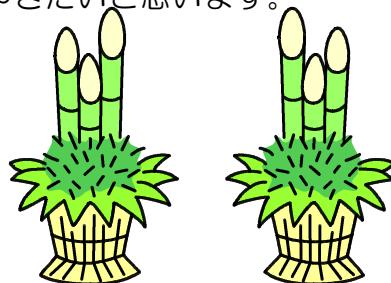
二歩前進 校長室からのつぶやき

私自身が思っていること、考えていることをつぶやきたいと思います。

門松を飾る意味

あけましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひします。新しい年が始まり、心機一転頑張りましょう。



いよいよ3年生は、受検が始まります。健康に気を付けて、油断せず最後まで乗り切りましょう。2年生は最上級生へと、1年生は中堅学年へと向かっていきます。その自覚をもち、この短い3学期を過ごしていきましょう。

さて、年の移り変わりに門松を飾ります。学校でも飾られていましたね。この門松を飾る行為はどんな意味があるのでしょうか。

門松を飾ることには、日本の正月文化に深く根ざした意味があります。門松は単なる装飾ではなく、新しい一年の幸福や繁栄をもたらす「年神様」を家へ迎えるための目印としての役割を担っています。年神様は祖先の靈であり、同時にその年の豊作や家族の安泰を司る神とされ、正月に各家庭へ訪れると信じられてきました。その際、神様が迷わず家に降り立てるように、門口に松や竹を立てて「ここに来てください」という印を示すのです。

松は冬でも青々と葉を保つ常緑樹で、生命力や長寿の象徴とされます。また「祀る（まつる）」という言葉に通じ、神聖な木として古来より用いられてきました。

竹は真っ直ぐに伸び、節を重ねて成長する姿から、子孫繁栄や不屈の精神を象徴します。

さらに梅を添える場合もあり、寒さの中で花を咲かせる姿が忍耐と希望を表します。これらの組み合わせは「松竹梅」として吉祥の象徴となり、門松に込められる意味を一層豊かにしています。

門松の起源は平安時代の宮中行事「小松引き」に遡るとされます。貴族たちは年之初めに野山へ出て松を引き抜き、長寿や繁栄を祈って家に飾りました。この風習が庶民へ広がり、やがて正月の代表的な飾りとして定着しました。地域によっては杉や榦を用いる「門杉」などの変化も見られますが、いずれも神を迎える依り代としての役割は共通しています。

昔の習わしは少しずつ忘れ去れてしまいがちですが、おせち料理も含めそれぞれに意味があることを知っておくのも大切です。